



桂枝加黄耆湯 (けいしかおうぎとう)

【処方コンセプト】ジメジメした汗や寝汗をよくかく方の湿疹、皮膚炎に。

体が虚弱で重だるく、皮膚のしまりが悪く沢山汗をかき、そのためにあせも・湿疹がしやすい。多汗症のファーストチョイス。また、そのような状態を繰り返す方に。

◆桂枝加黄耆湯は『金匱要略』の水気病篇に出ている処方で、黄汗の病とその類似病に用いられる。

・黄汗の病とは、よくわかっていないが、腎不全や黄疸のような病とみる説もある。症状としては両膝が湿気のために冷え、また腰から上に汗が出て、腰が弛痛（だるく痛み）し、皮中に何かいるような感じ（蟻走感）で、からだが重く、疼き、煩躁し、小便の出が悪くなるもの。

・また、黄汗に似た病には、歴節（関節腫痛）、夜間の盗汗（労気）、皮膚甲錯（肌荒れ）、悪瘡（できもの）、身瞶（シジギョ：筋肉がピクピク動く）などがある。

◆本方は桂枝湯の加味方。虚弱な体質で、体力・気力が衰えているが、冷え症ではないものに用いる。

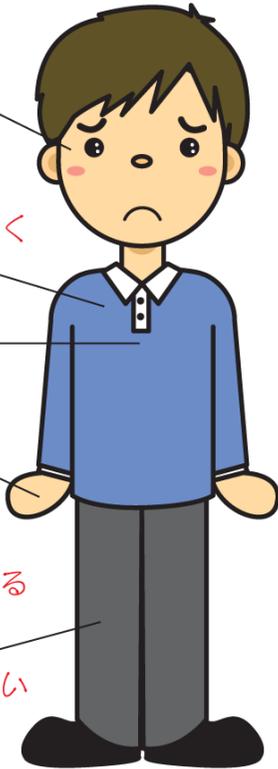
頭痛
 精神不安
 顔のむくみ
 ねあせ
 のぼせ

上半身に
 よく汗をかく

胸苦しい

皮膚炎では
 うすい
 分泌液が
 出たり、
 よく化膿する

下肢が冷たい

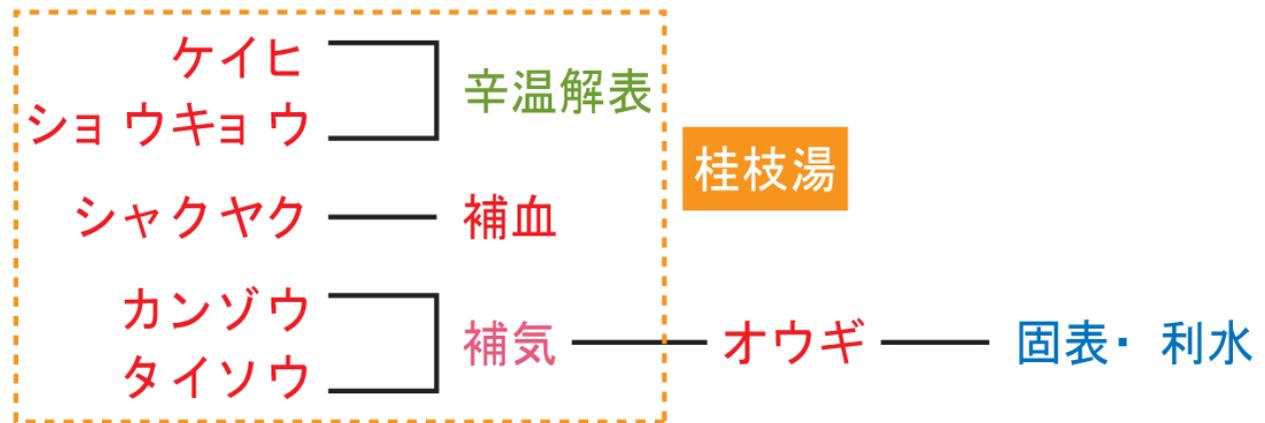


◆主に、慢性病の湿疹・皮膚炎（水疱があったり、分泌物が多い、赤みがあることも）に用いる。虚証で、腹部が軟弱、あるいは胃内停水がみられる。色白で、行動も緩慢で、おとなしい方に多い。

◆虚弱者のかぜ、寝汗、多汗症、あせも、小児ストロフルス、とびひ、アトピー性皮膚炎などにも応用されている。また、潰瘍、痔瘻、床ずれなどで肉芽の発生が悪いものにもよい。

【処方構成】6味

本方は桂枝湯に黄耆（オウギ）を加えたものである。桂枝湯より一層、表虚(体表の気が不足)の状態が進んだものである。黄耆は「瘡家（皮膚の化膿や潰瘍）の要薬」と言われ、表の虚を改善して、皮膚のしまりをよくし、水気を去り、膿を排し、肉芽の発生をよくし、強壮に働く。また、桂皮と甘草の組み合わせは気の上衝(のぼせ)に効果がある。



	解表				補気				利水		理気	駆瘀血				配合生薬数		
	柴胡	升麻	桂皮	防風	生姜	甘草	大棗	黄耆	人参	茯苓	防己	白朮	陳皮	当歸	芍薬		地黄	川芎
桂枝加黄耆湯			○		○	○	○	○							○			6

